

キャラクター名 プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン	ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	
	ハヌマーン				
オプション		年齢		性別	
覚醒	無知	衝動	破壊	初期侵食率	39 %
出自		経験		邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	2	1	0	1		4	行動値	18
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	18
精神	2	0	0			2	戦闘移動	23
社会	2	0	0			2	全力移動	46

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	6		射撃			RC	1		交渉		
回避	6		知覚			意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
素手	白兵	4r+6		5		崩壊の鼓動Lv5
(9)	白兵	9r+6		29		コンセントレイトLv3+音速攻撃Lv5+さらなる波Lv7+大裁断Lv5
(9) 100%	白兵	10r+6		34		コンセントレイトLv4+音速攻撃Lv6+さらなる波Lv8+大裁断Lv6
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費	
《超血統》	P	N			
因幡 春	P 庇護	N 不安			
東堂 重	P 尊敬	N 隔意			
幸	P 庇護	N 不安			
世界巻き込む遊戯	P 好奇心	N 憐憫			
デストラクション	P 同情	N 憎悪			
ミランダ	P	N 不快感			
最大財産P:	6	残り財産P:			

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
先手必勝	4	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 行動値+[Lv*3] / 基本値+4								
崩壊の鼓動	5	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 素手攻撃力+[Lv*2] (-5) / 基本値+4								
コンセントレイト	3	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-Lv								
音速攻撃	5	2	メジャー	武器	-	<白兵>	-	
効果: ダイス+Lv								
さらなる波	7	2	メジャー	-	-	シンドローム	-	
効果: 攻撃力+[Lv*2]								
大裁断	5	3	メジャー	武器	-	<白兵>	-	
効果: 素手攻撃力+[Lv*3]								
一閃	1	2	メジャー	武器	-	<白兵>	-	
効果: 全力移動 / 離脱不可								
リフレックス	3	2	リアクション	至近	自身	シンドローム	-	
効果: C値-Lv								
アクロバット	7	1	リアクション	至近	自身	<回避>	-	
効果: ダイス+Lv								
援護の風	5	2	オート	視界	単体	自動	-	
効果: ダイス+Lv / 1回/1ラウンド								
	★							
効果:								

もしもあの時を変えられたなら。
あの時の選択を間違えなければ、
"彼女"は今でも傍で笑っていただけていたのだろうか？
今ならばもう少し上手な生き方が出来たのだろうか？
後悔先に立たず。それでも、後悔を未来に繋げられたなら。

ダブルクロス The 3rd Edition 「Et Vous Voila」
—そして、あなたがここにいる。

※ここからシナリオのネタバレあり
ERから半年後、因幡 春（いなば はる）の補佐として活動を続けていた橘 翔（たちばな しょう）は覚えのない眠気を感じていた。ふと、春に声をかけられる。彼女は誰かを待っているようだった。そしてその誰かが部屋に入ってくる。それは、半年前に死別したはずだった元UGN新藤支部支部長、東堂 重（とうどう かさね）だった。まるで一年半前に戻ったかのように彼女たちの会話は進んでいく。半ば夢なのだろうと考え始める彼に、重は一年半前の記憶には存在しないはずのジャーム、"全てを無に帰すもの（デストラクション）"の調査を命じる。夢にしてはクリアすぎる感覚に戸惑いつつも、重が退室したのをいいことに翔は部屋を物色、デストラクションの写真を発見する。大きな鎌を持つ姿に謎の胸の痛みを感じる。その後かかってくるミランダからの電話が、更にここが過去であるということを押しつける。彼女から催促をやり過ぎた直後、ひどい頭痛を感じる。当たり前のように迎えた翌日、知りうる過去から唯一乖離する存在、デストラクションの調査を始めようと支部に立ち寄った際、カフェでパフェを嗜む春と会う。彼女から重との関係性を問われ、過去の日々を思いだのだった。その後、重に呼ばれ向かった支部長室にて、彼女からデストラクションと対峙したときに見た光景について話される。それは重が翔や春に襲いかかるといったものだった。不安から抱きついてくる彼女への態度に少し戸惑いつつも彼女を慰めた。改めてデストラクションを行うこと翔だが、やはりその姿を見ていると何か大事なものを忘れてる感覚に陥るのだった。その後、実の娘である幸（さち）から珍しい電話を受け取る。電話の後、タイムリープが本当に起きているのだと仮定する